

訂正

Errata

Vol. 27 (2018) No. 4 「急性大動脈解離に対するステントグラフト内挿術」にて下記内容に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

p. 339 Table 2

誤：

Table 2 Guidelines for diagnosis and treatment of aortic aneurysm and aortic dissection (The Japanese Circulation Society 2011)

Class I	
1. 血管内治療後慢性期の経過観察 (画像診断を含む)	(Level C)
2. 外科手術チームのバックアップ	(Level C)
3. 解離に伴う合併症を有する Stanford B型急性大動脈解離に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖	(Level C)
Class II a	
1. 大動脈解離により真腔が圧迫され虚血に陥った分枝血管に対するステント留置 *急性期例では発症早期での治療が重要	(Level B)
2. 急性 B 大動脈解離真腔閉鎖例に対する発症早期でのカテーテル的開窓術	(Level B)
3. 外科手術適応を有する Stanford B型慢性大動脈解離に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖	(Level B)
4. 逆行性解離による Stanford A型急性大動脈解離に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖	(Level B)
Class II b	
1. Stanford B型慢性大動脈解離の外科治療ハイリスク症例に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖	(Level B)
2. 急性大動脈解離真腔狭窄部に対するステント留置	(Level C)
3. 将来の瘤化防止を目的とした Stanford B型急性大動脈解離に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖	(Level C)
Class III	
1. 解剖学的適応条件を満たさない例への使用	(Level B)
2. 分枝血管が明らかに static compression により虚血に陥っている Stanford B型急性大動脈解離に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖	(Level C)
3. 主要分枝が偽腔から灌流されている Stanford B型慢性大動脈解離に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖 *カテーテル的開窓術を同時または先行させて施行する場合は Class II b Level C	(Level C)

以上は血管内治療に習熟している施設であることが前提となる。

正：

Table 2 大動脈解離に対する血管内治療

Class I	
1. 血管内治療後慢性期の経過観察 (画像診断を含む)	(Level C)
2. 外科手術チームのバックアップ	(Level C)
3. 解離に伴う合併症を有する Stanford B型急性大動脈解離に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖	(Level C)
Class II a	
1. 大動脈解離により真腔が圧迫され虚血に陥った分枝血管に対するステント留置 *急性期例では発症早期での治療が重要	(Level B)
2. 急性 B 大動脈解離真腔閉鎖例に対する発症早期でのカテーテル的開窓術	(Level B)
3. 外科手術適応を有する Stanford B型慢性大動脈解離に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖	(Level B)
4. 逆行性解離による Stanford A型急性大動脈解離に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖	(Level B)
Class II b	
1. Stanford B型慢性大動脈解離の外科治療ハイリスク症例に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖	(Level B)
2. 急性大動脈解離真腔狭窄部に対するステント留置	(Level C)
3. 将来の瘤化防止を目的とした Stanford B型急性大動脈解離に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖	(Level C)
Class III	
1. 解剖学的適応条件を満たさない例への使用	(Level B)
2. 分枝血管が明らかに static compression により虚血に陥っている Stanford B型急性大動脈解離に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖	(Level C)
3. 主要分枝が偽腔から灌流されている Stanford B型慢性大動脈解離に対するステントグラフトによるエントリー閉鎖 *カテーテル的開窓術を同時または先行させて施行する場合は Class II b Level C	(Level C)

以上は血管内治療に習熟している施設であることが前提となる。

出典：日本循環器学会. 循環器病の診断と治療に関するガイドライン (2010年度合同研究班報告) 大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン (2011年改訂版). http://www.j-circ.or.jp/guideline/pdf/JCS2011_takamoto_h.pdf (2018年3月閲覧)